

JMC九州支部 鹿児島研修会 報告 rev3

JMC九州研修会 場所：鹿児島 日時：2011 11/12～11/13 参加人数：6名

JMC九州支部にて毎年実施の定例研修会は、今回鹿児島が会場となりました。九州新幹線が全線開通したということ事で記念に終着駅である鹿児島を会場にとったのですが、さて決まったものの、機械設計業界とは縁の遠い南九州で何をしようかと悩んだ結果、「火山と共に暮らし、そこにある伝統文化に触れる旅」をテーマに行程を組みました。

まず、鹿児島と言えば火山。火山と言えば、今も活動する桜島と2012春に52年ぶりの噴火をした霧島は外せず、そして、伝統と言えば芋焼酎と黒酢と黒豚。ここを押さえて鹿児島となる、それらを一泊二日で周る強行軍の日程を敢行すると勝手に決めて、当日となりました。

11/12 午後に九州新幹線終着駅となる鹿児島中央駅に福岡・大分・京都？からなるメンバーと待合せするも、早くも山陽新幹線で信号故障によるダイヤ乱れによって福岡・大分メンバー30分遅れ、京都？メンバー1時間遅れのトラブル発生。京都メンバーには遅れて後程合流で泣いてもらい、30分遅れで桜島フェリー港へ出発。鹿児島では有名な「桜島フェリーうどん」に舌鼓を打ちながら桜島へ上陸。桜島の3大見学コースの1番目は、鹿児島県民と全国100万人の長渕剛ファンには聖地となっている「長渕剛オールナイトコンサート跡地・赤水展望台広場※1」を観光し、メンバー皆様には長渕剛よりも展望台一帯に積もった大量の火山灰と過去に流れ出た溶岩に感動を頂きながら、今回メインとなる2番目の「国際砂防センター」へ向かうのでした。「国際砂防センター」は国土交通省の砂防出張所を兼ねており桜島土石流の監視と砂防ダムの維持管理を行いながら、桜島の歴史と砂防の資料館を併設し、土石流多発河川の「野尻川」を横目に見ながら館員の説明を受けました。ここでは、防災に関する質問も出るなど有意義な時間となりました。次の3番目は、砂防センターでの説明を頭の片隅に置きながら桜島の自然と防災を肌で感じ取れる「湯之平展望台※2」へ向かうのでありました。展望台へ向かう道すがら更なる火山灰の砂塵に驚きながら、展望台で真近に迫る火山と眼下に広がる錦江湾と野尻川と砂防ダムとそこで働く作業員の方々と重機を見ながら、鹿児島県民である私自身も、防災の為に多くの人智と労力が投入されている事に感動を覚えました。

桜島での見学を終え、バスは流れ出た溶岩の中にある道路を走りながら、桜島より大隈半島に移り夜の宿地・霧島を目指し進路を北へと向けるのでした。

そして、本日最終見学地となる黒酢の老舗「坂元醸造」へと立ち寄りました。「坂元醸造※3」は近代的醸造工場ではなく、海に面した斜面一帯に黒い壺が無数に置いてあり、昔ながらの製法にこだわった醸造会社です。立ち寄った時はちょうど杜氏の方々が手作業で壺の攪拌作業を行っており、その景色が夕日を背にした桜島と錦江湾に写り、またまた鹿児島県民である私自身も、伝統の知恵が脈々と受け継がれている事に感動を覚えました。その後、坂元醸造で、

1年物・2年物・3年物の黒酢を試飲し健康になった気持ちで霧島へ向かうのでした。

向かう途中の駅で、京都メンバーと合流し霧島のホテルへ到着し、メンバー全員で温泉に浸かる時も、黒豚を食す時も、焼酎を酌み交わす時も、未来の日本と機械設計を熱く語りながら夜は更けていくのでした。

翌日となり、昨晚の議論とアルコールの余韻を残しつつ、11/13の見学へと向かうのでした。移動の道すがら途中にある、坂本龍馬が寺田屋事件で負った傷を癒す為、おりょうさんと共に訪れ、日本で初めての新婚旅行の地となった「塩浸温泉.※4」に立ち寄り歴史に思いをはせながら、研修会最終見学地である「チェコ村バレルバレー」へと向かいます。

「チェコ村バレルバレー.※5」とはチェコ政府公認の観光機関でありながら「錦灘酒造」という由緒ある酒造メーカーです。ここで焼酎の製造工程を見学しつつ試飲で鹿児島最後の最後を楽しんで頂き、研修会のメとしてセッティングしましたが、メンバー皆様におかれましては予想に反し真剣に工場見学と係員の説明と試飲に望まれており、最終見学地として適していたとホッと、これにて研修会全行程を終えてバスは鹿児島中央駅に向かい無事解散となりました。

今回の研修会は近代的産業の少ない地方であっても、そこで生活している人は伝統と文化を守り、自然と共に生き、その知恵の中には現代に繋がり、通用する技術があると改めて感じた有意義な研修会でした。

メンバー皆様におかれましては、強行軍でお疲れのことだったと思いますが、無事帰宅されました事ホッとすると共に、ご協力頂きましたこと誠にありがとうございました。

2011.11.22 記) 時任